

事案名	米沢市郊外の事案（山形県 新規事案）
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧軍毒ガス弾等についてのアンケート調査結果（元第6陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔A1〕</li> <li>・証言（元第6陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔A2〕</li> <li>・旧軍毒ガス弾等についてのアンケート調査結果（元第6陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔A3〕</li> <li>・証言（元第6陸軍技術研究所米沢分室軍属）〔A4〕</li> <li>・「米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書」第2集〔A5〕</li> <li>・「第6陸軍技術研究所米沢出張所に係る情報提供に係る関連調査結果について」〔A6〕</li> <li>・『米沢市史』第5巻・現代編〔A7〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>終戦時に、第6陸軍技術研究所米沢分室に存在した毒ガス弾等は、関係者により米沢市内において爆破処理したとの証言情報が存在している。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元第6陸軍技術研究所米沢分室関係者は、昭和20年8月中に、「市内から1～2里離れた（通称）にトラックに、どこからか持ち寄った赤筒、黄筒、緑筒のものを（吾々のところにはなかった）、吾々の班以外のものを集めて運び、少年学校出身の軍曹（運人）が穴を掘りうめ、爆薬で爆破した（1回だけ）。その量はそれ程多くなかった」と記している〔A1〕。同関係者によれば、8月中旬に、第2班の伍長と曹長が、くしゃみガスと催涙ガスの筒（あか筒とみどり筒）、「ちゃ瓶」、毒ガスの分析に使用したガラス器具や薬品瓶等をかき集め（筒は箱に入ったもの2～3箱、それにバラになったものが若干あった）、5～6名でこれらをトラックに積み込んで に向かい、人家から離れた場所に直径5m・深さ3mの穴を掘って TNT 火薬とともに入れ、導線をつないでトラックの下に隠れてからスイッチを入れて爆破、爆破後、掘り鉢状になった穴をスコップで埋設したが、穴の中には形ある物はなかったと証言している〔A2〕。なお、 には海軍の予科練の者が飛行場を造成していたとも証言している〔A2〕。</li> <li>・元第6陸軍技術研究所米沢分室関係者は、昭和20年8月末に「米沢から離れた飛行場」に穴を掘って毒ガス弾・爆弾と思うものを地下深く埋めた、と記している〔A3〕。この埋設情報について同関係者に確認したところ、「何かを埋めて爆発させると聞いた記憶があるが、何を埋めるのかについては分からない。また、穴を掘る作業をしたとき</li> </ul>

には、その周囲に何か埋めるようなものは存在していなかった」と証言している〔A4〕。

現在の情報

- ・現在 には工業団地等が存在している〔A5〕〔A6〕。

その他情報

- ・毒ガス弾等を爆破したとされる には、戦時中旧軍の飛行場が存在していた。この飛行場は、軍の飛行場として昭和10年11月22日に完成したが、日中戦争の勃発で軍の利用は過疎となり、国防思想の普及と航空兵養成の観点からグライダー訓練が盛んに行われたと記されている〔A7〕。